

戦災の文樂首

齋藤清二郎

このたびの戦災で焼亡した文樂座所蔵の人形首かしろについて一應調査整理し記録しておくことも必要であろうと思はれる。(戦災の小道具、衣裳、文樂類の記録も専門の方にしておいてほしい)

戦時中首かしろの疎開については斯の道に關心を持つ一部の入達のあいだに熱心に提唱されていたにもかかわらずこれが實行に移されずにはたことはまことに遺憾なことであつた。

わたしは會つて南地阪町の松竹衣裳部の倉庫に保管されてゐた文樂座の首を調査と寫眞撮影のために數日通つたことがあつた、當時首は茶櫃に三杯程、約百五十個位はあつたと記憶してゐる。尤もこの過半數の首は文樂座の舞臺で始終遣つてゐるものではなくて、その多くは修繕や塗替を要したりする首であつて、とに角現役のものではないものが多かつたがこの中にはいゝ首も相當に残つてゐた。

また近頃は通し物が上演されないのであまり必要でない特

殊な首にかえていゝものがあつた。この中には大文七や大團七、それにういち、と云ふ首もあつた。また風變りな特殊首には、大江山の般若や鬼、宗玄庵室の宗文とか鬼一法眼鞍馬山の木の葉天狗、吃又大津繪繪抜けの段に遣ふ外方それに本朝廿四孝百物語二股根のお化けなどと云ふ珍首かしろもこの茶櫃に藏まつてゐた。(拙著「文樂首の研究」(圖版参照)また胴串やノド木に初代吉田玉造、扇屋三郎兵衛、植村文樂軒、文鳳彦六座の寺井、稻荷座の花里など會つての所藏者の焼印のあるものも多く見受けた。

即ち、この中には修繕をして現役に廻せば充分に間に合ふ立派な首もあつた。これが現在残つてゐれば不足勝ちにも何とか補足もついたことと思はれるのだが、當事者は現役の首かしろでないだけに疎開と云ふことに關心もなかつたのであろうが、これは是非疎開してをいてほしかつた。これが三月十四日の大阪の戦災で眞先きに焼亡した。續いて十七日の神戸の空襲で興行先であつた新開地の松竹劇場で現役のものを一切焼いてしまつた。

元來文樂の首は大正十五年末の御靈文樂座火災のときに、檢非違使、孔明、源太、鬼一、東馬、斧右衛門、陀羅助、笹

屋(娘)、老け女形、つめなどのいゝ首はその當時すでに失つたのであつて、この焼けた首のうちで、東馬は跡を絶ち、斧右衛門は稍これに近い類型のものを、陀羅助は前の文樂の頭取であつた吉田三吾舊藏のもので現在まで間に合せ、其他は當時の人形細工師であつた天狗辨の摸作の首で、とも角も戦災前まで間に合せて來たのであつたが、この間に合せものは流石にこれまでの文樂傳統の逸品のものに比較すると見劣りがされた。

しかし何と云つても御靈文樂座焼失の當時はまだ文樂傳統のいゝ首が後に控えてゐたのは前記の松竹の倉庫に保管されてゐた第二第三の選手を取り出して修繕して使つてゐたからである。

即ち戦災前まで残つてゐた首は、その當時に幸ひ、焼け残つたもの許りなのであつた。

扱つてこのたびの戦災で焼失した現役の文樂首のうちで名品として惜しまれる首の名稱を列記すると、

小團七、金時、鬼若、與勘平、大舅、定の進、正宗、たけうち、白太夫、虎王、三枚目、鼻動き、丁稚、お福、八汐、太夫、婆、悪婆、つめ、景清、座頭などであつて、これが戦

災で全部焼失してしまつたことは全く致命的な痛恨事であつた。

こゝに大殊勳として發表したいことは、斯道では逸品とされてゐる「文七」が吉田玉助氏の努力に依つて辛じて神戸の戦災から焼失を免れたことは欣幸としなければならぬ。この「文七」は嘉永前後の頃の三代目桐竹門造の作と推定される初代玉造舊藏のもので、近頃ではいつも吉田榮三が寺子屋の松王や陣屋の熊谷に遣つてゐた文樂ファンのお馴染の首である、この玉助氏の功績は凡作首百個を失ふよりも有難いことであつた。その他には僅に三番叟とつめの首二三種が無事を得た位のものであつた。

次に戦災後の復興文樂座は、さしづめ個人所有の特志な愛藏家から借集りめた首を興行に使ふより差し當り良い手がない現状であるが、戦災後の文樂人形の整理は立場を改めて再検討したいと思ふので、今はこの問題には觸れないでか

う。

終りに主要な文樂首の戦災品目を整理類別して別表に掲げ、併せて主な役柄をも附記することにした。

(圖版は安原仙三氏撮影の戦災首の記録寫眞)

文樂首戰災品目 (●印は名作カシラ)



寫真右上ヨリ
小團七、金時
與勘平、大舅
正宗
左上ヨリ
定之進、白太
夫、虎王、祐
仙、三枚目

首の名稱	戰災 個數	主 要 役 名	備考
文 七	四	松王丸、光秀、熊谷、樋口	●
口アキ文七	一	入鹿、時平公、松永大膳	
小 團 七	二	いかみの權太、油絞り勘六、傳九郎	●
大 團 七	一	和藤内、宗任、辨慶	
アオチとネムリ の檢非違使	一	源藏、南方十次兵衛、古手屋八郎兵衛	●
アオチとネムリ の檢非違使	一	大黒屋宗六、奴入平、長右衛門	
アオチとネムリ の檢非違使	一	梅王丸、平右衛門、一寸徳兵衛	
アオチとネムリ の源太	一	忠兵衛、伊左衛門、治兵衛、求女、保名	●
若 男	二	勘平、手負の重次郎、大内記	
鬼 若	四	久松、俊徳丸、敦盛	●
陀 助	二	加藤虎之助、放駒長吉、阪田公時	
孔 明	一	八右衛門、太兵衛、香具屋彌兵衛	
	四	菅相丞、重忠、由良之助、粉屋孫右衛門	
首の名稱	戰災 個數	主 要 役 名	備考
金 時	二	春藤玄蕃、四方天但馬守、梶原景高	●
與 勘 平	二	鐵ヶ嶽、與勘平、岩永、蛇の目眼八	●
鬼 一	五	大判事、金藤次、彌陀六、本藏	
大 舅	一	師直、瀬尾十郎、北條時政、頼兵衛	●
身五左衛門、半兵衛、信田庄司	一	身五左衛門、半兵衛、信田庄司	
正 宗	二	正宗、合邦、彌左衛門、戎屋徳右衛門	●
定 之 進	二	隆右衛門、宗岸、半才	●
たけうぢ	二	平作、九郎助、權四郎	●
白 太 夫	一	白太夫、久作	●
虎 王	一	九太夫、七太夫、土師兵衛	●
又 平	一	又平、與次郎、彦六、儀兵衛	●
祐 仙	一	祐仙、伴内、萬歳	●
三 枚 目	二	傳海坊、善六、仕丁又五郎	●

